

令和7年度第1回長野県公共交通活性化協議会 上田地域別部会実務分科会 (概要)

日時：令和7年6月27日（金）13：30～14：45

場所：上田合同庁舎 6階講堂

1 開会（事務局）

2 あいさつ（会長）

- ・日頃より公共交通行政にご尽力とご協力を賜り、御礼申し上げます。
- ・地域公共交通を取り巻く状況は年々厳しくなっており、近年は深刻なバス運転手不足などの課題に直面している。こうした状況のもと、県と77市町村は昨年6月、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、長野県地域公共交通計画を策定したところ。計画では、行政や交通事業者など関係者間で共通の認識を持ち、一体となって取り組む具体的な施策や役割分担、推進体制を明示している。
- ・上田地域別部会では今年度、県域ごとに定める地域計画をより実効性のあるものに更新するため、実務分科会を複数回開催し議論を行う予定。
- ・地域計画の更新にあたっては通院、通学、観光といった移動の品質保証を重要なテーマとして掲げ、地域の実情に即した最適な公共交通のあり方を検討していく。
- ・本日はその初回として地域計画の更新やバス路線に対する県の新たな支援制度等について情報共有するとともに、具体的な拠点の再設定についてご意見をいただく予定であり、委員の皆様の率直なご意見をお寄せいただきたい。

3 委員紹介

- ・名簿配布による

4 議事

(1) 長野県地域公共交通計画上田地域編の更新について

- 資料1に基づき、事務局から説明

(2) バス路線に対する県の新たな支援制度について

- 資料2に基づき、事務局から説明
- 議事(1)及び(2)を一括して質疑応答

【千曲バス】

- ・県の新たな補助制度に係る運行支援に関し、1kmあたり支援単価の設定について「補助対象路線を運行する事業者の実車走行キロ当たり経常費用（運行実績）」があるが、これはその当該年度単年か、それとも3カ年平均か。
- ・また、同支援単価について、資料2の7ページでは運行実績と地域単価の低い方の1/2+処遇改善に要する経費となっているが、9ページの表では、県の補助50%の

中に運行経費の 1/2 相当と処遇改善補正が込みとなっており、この場合、運行経費の補助は実質 1/2 以下になるが、ここの考え方も明確にしていきたい。

- ・併せて、処遇改善の 2 年間の賃上げ率は、事業者ごとの数値なのか県内平均の数値を採用するのかについても確認をお願いしたい。

【事務局】

- ・今回、支援制度の大枠の事業スキームをご説明したところであるが、実際の運用についてはこれから細部を詰めていくところと認識している。現時点では明確な答えができず申し訳ないが、今後詳細が判明次第、情報共有を図ってまいりたい。
- ・また、現状の資料を見るだけでは、事業者の皆様には分からないような詰めていくべき点があるかと思うため、お気づきの点があれば県にお寄せいただきたい。

(3) 拠点の再設定について

- 資料 3 に基づき、事務局から説明
- 質疑応答

【ジェイアールバス関東】

- ・長和町の交通結節点について、事務局案では長和町役場が挙げられているが、実際には長和町役場にはバス停がなくバスの乗り換えはできない。そのため見直しが必要である。現状では長和町内に弊社の長久保営業所があり、そこから路線バスが出ている状況。長和町内では昼間はデマンド交通が運行されており、その運行範囲の中では長和町役場が関わってくるが、通常の路線バスは全く路線がないため、見直しをお願いしたい。

【鎌田会長】

- ・事務局案では各市町村の中心地として役場を一律に設定したが、実態と異なるのはその通りである。長和町の場合、少し距離は離れるが役場、道の駅、温泉施設が幹線道路沿いに並んでおり、将来的には観光も含めそれらを結ぶバス路線ができれば良いと考えているところである。この点について長和町様のご意見を伺いたい。

【長和町】

- ・お話いただいた内容は現状ではその通りである。役場にはバス停がなく、町内のデマンドバスが動いているだけある。ただし、会長が言われたように将来的なことも含め、長和町役場をそのように発展させていきたいという考え方で交通結節点としたということであれば、同意できる。現在と将来でそれぞれ違った視点で捉えれば考え方も違ってくる。

【鎌田会長】

- ・「将来を見込んで」という趣旨のもと、今回は長和町役場を交通結節点とさせていただきたい。

【上田市】

- ・通院と通学の拠点案に病院と学校が上がっているが、拠点として設定することにより、今後品質保証が必要になる。品質保証に向け、当該拠点がバス停から何百メートル以内、鉄道駅から何キロメートル以内に必要など、具体的な基準はあるか。また、観光についてはタクシーも交通手段として品質保証の範囲に入るのか。

【事務局】

- ・距離については現在明確な基準はないが、様々な制度等において目安となる距離があるので、それらを援用することなどが考えられる。
- ・今後の分科会では品質保証の範囲をどこまでにするか議論していく必要がある。その際には拠点とバス停等との距離を、例えば通院は高齢者が問題なく歩ける範囲として約 300m、通学は一般的な人であれば約 500m 以内とするなど、具体的な数値も含めご意見を頂きながら検討してまいりたい。
- ・観光については、今後長野県の宿泊税の検討が進む中でその財源を公共交通にどう生かすかという議論が行われ、バスなのかタクシーなのか等具体的な品質保証の基準についてもその先で論議することとなる。今後も引き続き情報提供をしながら進めてまいりたい。

【千曲バス】

- ・丸子地域自治センターについて、近隣に弊社のバス停があるものの、その近くに丸子駅というバス停があり、JR バス、東信観光等複数の路線バスが乗り入れており、交通結節点としては丸子駅の方を設定した方がよいという感覚がある。自治センターを消すのではなく、丸子駅もという形で複数設定してはいかがか。

【鎌田会長】

- ・丸子駅に複数の事業者が乗り入れており、ターミナルとして機能していることは承知していたが、ターミナル運営上の課題等があることも想定し保留させていただいていたところ。事業者様が当該バス停を拠点として今後も維持していかれる予定であれば、地域拠点として入れさせていただきたいと思う。
- ・当該バス停は、丸子地域自治センターとの距離が 500m程度であり、地域自治センターの方も丸子地域の住民の皆様にとって身近な存在であることも考慮し、事務局案では地域自治センターを入れさせていただいたが、上田市様の見解を伺いたい。

【上田市】

- ・何を主眼に置いて設定するのか、交通結節点なのか地域拠点なのかによって考え方が違ってくるため、考え方の整理が必要であると思う。交通結節点ということで考えれば、千曲バスの丸子駅、上田バスのバス停名では丸子町になると思うが、そちらが交通結節点であると思う。
- ・さらに付け加えると、本市としては真田自治センター入口の停留所も交通結節点と考えている。

【鎌田会長】

- ・真田自治センター入口については事務局案の資料では括弧書きとさせていただいているが、こちら数百メートル離れた場所に地域自治センターがあり、入口のバス停の方が現状交通結節点となっていると思われる。仮に地域自治センターの方に拠点を移した場合、バス路線を一旦地域自治センターの方に乗り入れなければならない可能性を考慮し、事業者の皆様の御意見も聞く必要があるため保留させていただいたところである。この点について、上田バス様のご意見を伺いたい。

【上田バス】

- ・真田自治センター入口停留所は幹線系統が3つ通る拠点であり、そこから地域自治センターへ入るということになると、運営上非常に難しい。
- ・利便性確保の観点から、現在真田自治センター線を核として30分に1本のバスのダイヤを組んでおり、それを地域自治センターまで乗り入れるとすると、5分から10分のロスが出てしまうため、現状の30分に1本のダイヤ編成が難しくなり、結果的に利便性を阻害することになると考えられる。

【鎌田会長】

- ・今の上田バス様の意見も踏まえ、上田市様の見解を伺いたい。

【上田市】

- ・上田バス様がおっしゃられた通り、3つの幹線が真田自治センター入口停留所を通過しており、そこが交通結節点と認識している。地域自治センターの方へ入って行くのはそのうち傍陽線だけであり、（上田市が現在進めている）地域公共交通利便増進事業の中で、真田自治センター入口までは30分に1本のパターンダイヤ化をお願いしている状況のため、（地域自治センターへの拠点の移動については）上田バス様の見解のとおりと考える。
- ・また、丸子駅についても、1時間に1本のパターンダイヤ化を千曲バス様にお願いしているところであり、そういう観点からすれば交通結節点は丸子駅である。

【鎌田会長】

- ・丸子駅と真田自治センター入口については、資料では括弧書きになっているが、地域拠点として追加するよう次回の資料で反映する。
- ・また、千曲バス様の下秋和車庫を括弧書きとさせていただいているが、車庫であるため複数の路線がそこから出発するという事で、地域拠点としての追加はいかがか。営業所を拠点にされることに問題はありますか。

【千曲バス】

- ・下秋和車庫から上田駅間の停留所は当社の全ての路線が経由しているため、生活路線の乗り換えという観点で考えるのであれば上田駅の方が便利である。しかし、下秋和車庫は全ての路線が入っている他、当社の高速バスの発着もあるため、東京

や大阪方面からの御客様も降りて利用ができるということを考えると、交通結節点と見なすこともできる。当社としてはどちらでも良いと考えている。

【鎌田会長】

- ・では、下秋和車庫についても地域拠点の一つとして加えさせていただく。それ以外に何でも結構なので、ご意見があればお願いしたい。

【県交通政策課】

- ・資料3裏面にある「生活関連施設が集積している」の欄の○や×の表記は何らかの基準に基づいているのか。例えば豊殿地域自治センターが×になっているのに対し、丸子地域自治センターが○になっているが、実態として豊殿の方は近隣にショッピングセンター、ガソリンスタンド等の施設があり、丸子の方にはどちらかということそれが無い。また、丸子駅の△や青木村役場の○の表記など、統一感がないように感じるがいかがか。

【鎌田会長】

- ・生活関連施設について現状基準はない。主観が入ってしまっているところもある。県全体で基準があれば良いが、それは難しいと考えられるため、他の地域で目安として使われている基準などの情報があれば提供いただきたい。
- ・また、ショッピングセンターは管内至る所にあり、どこを選定するか非常に難しいと考えているが、それについて皆様でご意見があればお願いしたい。
- ・その他全体を通して、何でも結構なのでご意見があればお願いしたい。

【上田バス】

- ・当社では、今後（上田市が現在進めている）地域公共交通利便増進事業の関係で幹線である菅平高原線を裏太郎まで延伸する予定である。この場合、裏太郎のバス停の設置個所は須坂市であり市町村界を跨ぐ路線となる。現状この路線は（県の新たな支援制度の）補助対象となっておらず、運営も非常に厳しい状況となっている。延伸により市町村界を跨いで100m、200m入っただけの話ではあるが、今後補助対象として考慮いただければと願っている。

【鎌田会長】

- ・長野圏域とも調整し研究を進めていきたいと思う。

5 その他

- ・「交通空白」解消の取組について（北陸信越運輸局）
 - 資料に基づき、北陸信越運輸局から説明
 - 質疑応答は特になし

6 事務連絡（事務局）

次回の分科会の日程については、決まり次第ご案内します。

閉 会 (14 : 45)